

ユニバーサル化時代の我が国の大進学 ～正解から納得解へ～

13:00～14:00 講義（質疑含む）

14:00～14:10 休憩

14:10～14:40 グループワーク

14:40～15:00 グループワークの発表・講評



出光 直樹

横浜市立大学 アドミッションズセンター
(高等教育推進センター 併任)
専門職・学務教授

桜美林大学 大学院 非常勤講師
naoki@deimitsu.info
<http://www.idemitsu.info>

講師の自己紹介

- 1967年 東京都出身、 1990年 札幌学院大学人文学部卒業。
 - 大学4年生の時に一般教育学会(現:大学教育学会)に入る。
 - 大学入学前に米国の州立短大(コミュニティーカレッジ)に半年ほど、卒業後にオーストラリア国立大学大学院に1年半ほど“遊学”
- 桜美林大学大学院で高等教育論を専攻し1997年修士課程修了。1999年博士後期課程を中退し同大学の職員に。
 - 大学院在学中は研究員としてFD/SDやIRのサポート、大学院中退後は職員として入試広報等の業務に従事。
- 2005年から横浜市立大学に移り現職。
 - 事務局組織における専門職として、電話対応や願書処理等の実務とともに、データ分析や新しい入試方法のデザインを担う。
 - 医学科入試については2013年より一貫して担当。
2022年より高等教育推進センター(教育開発/FD・SD/教学IR/高大連携)も併任
- 2014～2018、2024～ 桜美林大学 大学院非常勤講師。
 - 大学アドミニストレーション実践研究学位プログラム「大学アドミッション論」

1. 日本の大学入試の実像

- 大学入学者選抜実施要項
- 入試区分別入学者割合

2. 世界の高大接続・大学進学

- 中等教育修了資格試験型
- アメリカ型
- 統一入試型

3. 中途半端な日本の高大接続改革

- 高校生の「学力把握」& 受験生の「選抜」
- 忘れられた「学力把握」の仕組みづくり
- コスト・パフォーマンスを省みない入試改革

4. 当事者の視点で大学進学を考える

日本の大学入試の実像

入試区分	特徴	時期	併願
特別選抜*	●帰国生、留学生、社会人などの特別な属性の者を対象にした入試。筆記試験+面接が多い。	様々	○が多い
総合型選抜	●“自己推薦型”の入試として登場してきたが、様々なバリエーションが派生。 ●国公立大学では共通テストを課すものもある	9月以降	国公立は× 私学では○も増えて いる。
学校推薦型 選抜	【指定校制】志願→合格→入学が前提 【公募制】小論文+面接での競争試験が多いが、国公立大学では共通テストを課すものもある。 ●関西では2教科程度の学力試験型で併願可能なケースが多く、だんだん東日本にも広がる兆候も。	11月以降	
一般選抜	●基本的に学力試験のみが主で、一部に面接や実技試験なども課される。 ●国公立大学は必ず共通テストを利用する。	2月以降	○

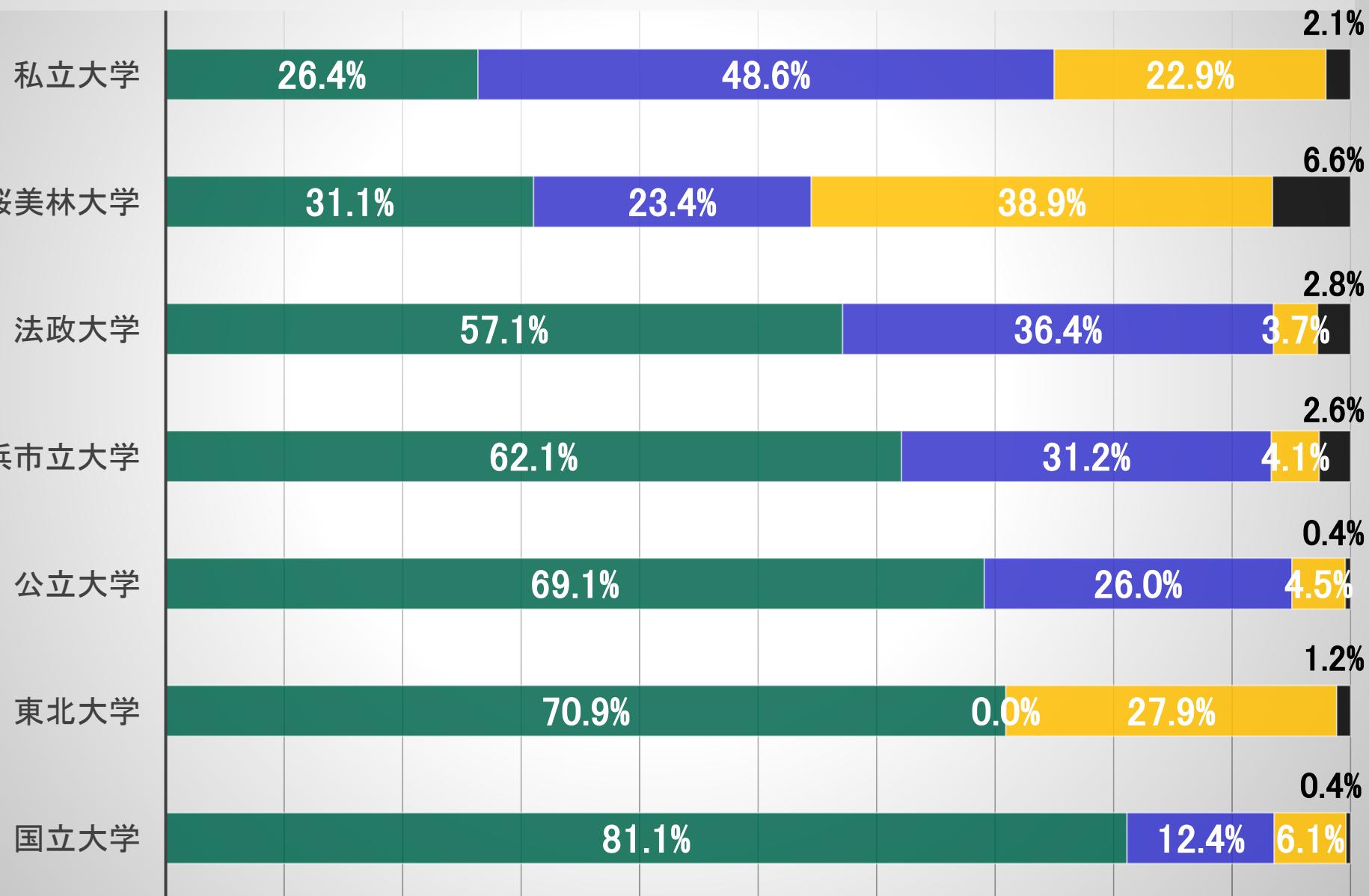
*2025(R7)年度以降は、総合型・学校推薦型・一般選抜の何れかの区分に含まれるものとされる。

日本の基本ルール 『大学入学者選抜実施要項』

- 文部科学省が全国の大学、および高校等を所管する自治体等に通知している文書。大学入試の実施方法や、高校等が作成する調査書の様式などを定めている。
- その通りに守られている点とそうでもない点(実施時期など)、フィクションや願望(総合的に判定)も入り交じる。
- 「推薦入試 → 学校推薦型選抜」{1967(S42)年度}、
「アドミッション・オフィス入試 → 総合型選抜」{2002(H14)年度}
 - 実態は先行。AO入試の場合、1990(H2)年度～慶應義塾大学、2000年度～国立3大学で開始(東北大学、筑波大学、九州大学)、など
- 2025(令和7)年度の要項での変更点
 - 新しい高等学校学習指導要領(平成30年3月告知)への対応
 - 入試方法を「一般選抜」、「総合型選抜」、「学校推薦型選抜」に再整理。
 - 不評だった調査書の様式(枚数任意)を簡素化し再度2枚に統一、など。
- 2026(令和8)年度の要項での変更点
 - 総合型・学校推薦型での個別テストの実施時期の例外(1月以前での実施)について明記、など

2024(R6)年度 入試区分別入学者割合

■一般選抜 ■学校推薦型選抜 ■総合型選抜 ■その他



入試区分別の入学者数

- 「私立大学」「公立大学」「国立大学」のデータは、文部科学省が2024(R6)年11月27日に公表している『令和6年度国公私立大学入学者選抜実施状況』より。
- 個別大学のデータは、各大学がWeb公表しているデータ。国公立大学の多くは入試区分別の入学者数を公表しているがあるが、私立大学は入試区分別の数字は非公表のケースが多い。

総合型選抜

- 国公立大学や有力私立大学での総合型選抜は選抜性が高いが、出願者の資質を書類選考や面接で丁寧に判断するために実施コストは高く、入学者の割合は平均で見ればそれほど多くない。ただし東北大学の様に、学校型選抜は実施せずに総合型選抜に注力して入学者3割近くを占めるケースも。
- 中堅より下の私立大学の総合型選抜では、具体的な課題を示して志願者に取り組ませるものや、オープンキャンパス等の広報イベントでの面談や講座の受講を通じて出願に誘導するタイプがあり、選抜よりも育成的なスタイルが多くなる。また、シンプルに2科目程度の筆記試験による早期学力試験型も広がっている。
- 国公立大学や有力私立大学の総合型選抜は、合格者への入学義務を課している事が一般的であるが、中堅以下の私立大学の総合型選抜では、他大学を併願可能なケースが多い。

学校推薦型選抜

- 私立大学の場合は「指定校制」か「公募制」かの違い、国公立大学の場合は共通テストを「課す」「課さない」の違いも重要な要素。
- 私立大学の場合、有力大学でも付属校を含む指定校制の割合が高い傾向にある。
- 関西圏の中堅私立大学では、2科目の筆記試験のみ選抜でかつ他大学併願可能な早期学力試験型が広く行われていたが、2025年度募集で東洋大学が導入したところ、ちょっとした騒動に。
- 横浜市立大学の場合は、31.2%の内訳が、指定校制23.2% + 共通テストを課すタイプ8.0%となっており、他の公立大学とは一線を画したものとなっている。
- 横浜市立大学の指定校制推薦は、2005年度より従前の公募制を切り替える形で導入されたが、入学者の大学入学後の成績は一貫して良好。近隣を中心とした指定高校は、偏差値的にある程度の幅を有するが、多層なレベルの高校からの本学への進学ルートとして、高大接続の重要な役割を担っている。

1. 日本の大学入試の実像

- 大学入学者選抜実施要項
- 入試区分別入学者割合

2. 世界の高大接続・大学進学

- 中等教育修了資格試験型
- アメリカ型
- 統一入試型

3. 中途半端な日本の高大接続改革

- 高校生の「学力把握」& 受験生の「選抜」
- 忘れられた「学力把握」の仕組みづくり
- コスト・パフォーマンスを省みない入試改革

4. 当事者の視点で大学進学を考える

中等教育修了資格試験型

大学

- 中等教育(高校)の修了資格試験が国家(州)レベルで制度化され、それが大学入試の機能も兼ねている国や地域。ヨーロッパ諸国やその影響を受けている旧植民地諸国などに多くみられる。
- 中等教育修了の水準が比較的高めで、日本の高校卒業生が大学入学を希望する場合に、1年間の進学予備課程の修学を求められる国も多い。

予備課程 (Foundation Course)

英:Aレベル、仏:バカロレア、独:アビトゥア、
NZ:NCEA、香港:HKDSE、国際バカロレア、etc

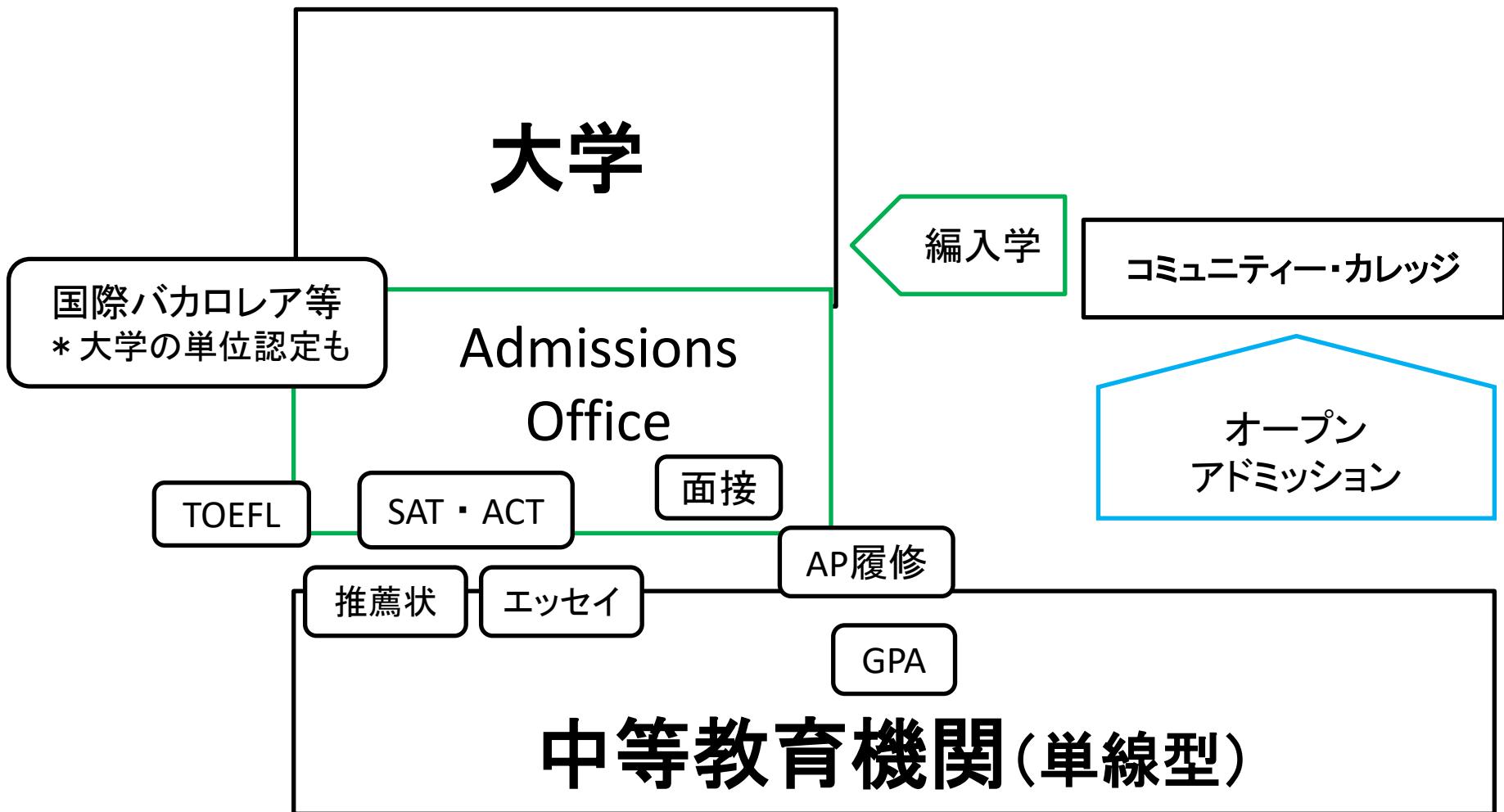
中等教育修了資格試験

中等教育機関
(主に複線型・分岐型)

水準の低い国の
中等教育機関
(含む日本)

アメリカ型

- Admissions Office（入学者選抜室）の専門職員による書類審査が基本。
- 書類審査の材料として、様々な材料（標準テストも含む）を用いる。



アメリカの大学入学者選抜

- 選抜型と非選抜型に大別。
 - 非選抜型のコミュニティーカレッジに入学してから、選抜型の4年制大学に編入学するルートも整備されている。
- Admissions Office の専門職員による書類審査が基本。
 - 日本のAO入試は、ここから名前を取っているが、かなり日本的にアレンジされている。
- 書類審査の材料として、様々な材料(標準テストも含む)を用いる。
 - 標準テスト(SAT、ACT)の成績。留学生にはTOEFLも。
 - エッセイ。志望理由、今までの成長体験、etc。
 - 高等学校の成績。高校のカウンセラーの推薦状。
 - 大学レベルの特別授業(AP)の履修歴なども評価。
 - 面接記録 (必須ではない事が多い)
 - 以上のような様々な資料を統合して総合的に審査。
入学の許可だけでなく、奨学金の有無も合わせて判断する多い。
 - Affirmative action (積極的差別是正策)や
Legacy admission (卒業生の子弟優遇)なども！
- 学生集団の形成という発想

AP: アドバンスド・プレイスメント

- 大学の一般教育科目に相当する科目を、高校教員が高校で高校生対象に提供するプログラム(授業科目)。1955年より開始。高校教員と大学教員が共同開発した科目要領に基づいて、各高校教員が指導案を作成して認定を受け、授業をおこなう。AP科目履修者は、毎年5月に実施される一斉試験を受験し、客観的な成績証明書を得て、大学での既習単位認定を受けられる。
(深堀 聰子「米国における高大接続の取組ーAdvanسد・プレイスメントによる共通理解」,『IDE現代の高等教育』2016年4月号)

NACAC(ナカック: 専門職団体)の役割

- 入学審査部は、1915年のコロンビア大学を皮切りに米国の大学に置かれ始め、1930年代には多くの大学で見られるようになった。1937年には、入学相談員の専門職団体である大学入学相談員協会(Association of College Admissions Counselors : ACAC)が設立された。...更に活動範囲を広げ、現在は全国大学入学相談活動協会(National Association for College Admission Counseling : NACAC)となり、約8千人の会員を抱える専門職団体に発展してきている。
(大場 淳「米国の大学における入学審査職員に求められる能力とその開発」『大学行政管理学会誌』第8号、2005)
- このNACACが定める「Statement of Principles of Good Practice」(倫理綱領)において、選抜方法の分類(併願の可否と実施時期による区別)が定義されている。

DEFINITIONS OF ADMISSION OPTIONS IN HIGHER EDUCATION



National Association for
College Admission Counseling
Guiding the way to higher education

STUDENTS: WHICH COLLEGE ADMISSION PROCESS BEST SUITS YOU?

Non-Restrictive Application Plans

Regular Decision

DEFINITION:

Students submit an application by a specified date and receive a decision in a clearly stated period of time.

Rolling Admission

DEFINITION:

Institutions review applications as they are submitted and render admission decisions throughout the admission cycle.

Early Action (EA)

DEFINITION:

Students apply early and receive a decision well in advance of the institution's regular response date.

Restrictive Application Plans

Early Decision (ED)

DEFINITION:

Students make a commitment to a first-choice institution where, if admitted they definitely will enroll. The application deadline and decision deadline occur early.

Restrictive Early Action (REA)

DEFINITION:

Students apply to an institution of preference and receive a decision early. They may be restricted from applying ED or EA or REA to other institutions. If offered enrollment, they have until May 1 to confirm.

COMMITMENT:

NON-BINDING

COMMITMENT:

NON-BINDING

COMMITMENT:

NON-BINDING

COMMITMENT:

BINDING

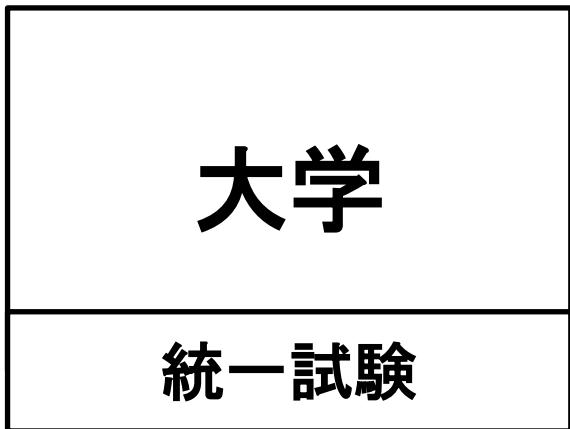
Students are not restricted from applying to other institutions and have until May 1 to consider their options and confirm enrollment.

Students are responsible for determining and following restrictions.

For a copy of this flyer, please visit www.nacacnet.org

※数年前まで掲載されていたフライヤー。細部に変更はあるものの基本的な枠組みは同じ。

統一入試型



- 国家レベルの統一試験が実施されるタイプ。
 - 中国：高考
(全国普通高等学校招生入学考試)
 - 韓国：修能（大学修学能力試験）
 - 台湾：学測（大学学科能力測驗）
- ただしこれらの国においても、統一試験に拠らない選抜方式が導入されている。
 - 韓国の入学査定官制度
(総合型選抜)

日本は・・・

大学

個別の様々な試験

統一試験

中等教育機関

- ✓ 日本は部分的に統一試験を実施活用するが、基本的には各大学が独自の試験を実施する、世界的に見て独特なスタイル。
 - 一般選抜、学校推薦型、総合型、留学生選抜、帰国生選抜、社会人選抜などなど、日本の大学入試は、他国に例を見ないほど多様。

1. 日本の大学入試の実像

- 大学入学者選抜実施要項
- 入試区分別入学者割合

2. 世界の高大接続・大学進学

- 中等教育修了資格試験型
- アメリカ型
- 統一入試型

3. 中途半端な日本の高大接続改革

- 高校生の「学力把握」& 受験生の「選抜」
- 忘れられた「学力把握」の仕組みづくり
- コスト・パフォーマンスを省みない入試改革

4. 当事者の視点で大学進学を考える

中途半端な日本の高大接続改革

- ・ 高校生の「学力把握」& 受験生の「選抜」
 - 諸外国のような中等教育の達成度を測る制度の無い中で、我が国は受験競争の圧力によって高大接続のための学力担保が図られてきた。
 - しかし、少子化による高等学校や大学への全入時代を迎え、高等学校の教育課程の多様化と大学の選抜機能の低下により、高等学校における基礎的教科・科目の普遍的な履修とその学力の担保が機能しなくなった。

【参考文献】

渡邊一雄 編(2010)『大学の制度と機能』

<https://amzn.to/333IHU3>

佐々木 隆生(2012)『大学入試の終焉：高大接続テストによる再生』

<https://amzn.to/36kVH9W>

忘れられた「学力把握」の仕組みづくり

- ・ 「高大接続テスト」(2010/9)
 - 大学入試センター試験は、基本的には各大学における選抜の判定資料となる**集団準拠型**の試験であり、これを基礎学力の達成度測定の為の試験として利用するのは不可能。
 - それゆえ「高大接続テスト」はセンター試験の改変ではなく、**目標準拠型**の新たなテストとして設計し、段階評価や複数回実施を取り入れる。

しかし...

- ・ 「高等学校基礎学力テスト」(2016/3)
 - 当面は大学入学者選抜(や就職)には活用しない。
- ・ 「高校生のための学びの基礎診断」(2017/7)
 - 共通試験ではなく、一定の要件を満たした民間の試験等を認定。

コスト・パフォーマンスを省みない入試改革 (センター試験～共通テスト)

- ・ リスニング試験の導入(2006年度～)
 - 試験時間の約9%、配点(素点)の約5%に対して、マニュアル(監督要領)に占めるページ数は約38%！
- ・ 公民・理科での2科目受験方式(2012年度～)
 - 科目選択の弾力化と引き換えに、120分かけて1科目を解答する“裏技”と、それを封じる「第1解答科目」縛りの登場。
- ・ 記述式問題(~~2021年度～~~ → ×)
 - 50万人規模でかつ日程の限られた中での無理な要求。
- ・ 英語4技能資格(~~2021年度～~~ → ×)
 - 4技能の一体的評価への無意味なコダワリ
→従来型英検の不採用とTOEICの離脱。
- ・ 教科「情報」の追加(2025年度～)

1. 日本の大学入試の実像

- 大学入学者選抜実施要項
- 入試区分別入学者割合

2. 世界の高大接続・大学進学

- 中等教育修了資格試験型
- アメリカ型
- 統一入試型

3. 中途半端な日本の高大接続改革

- 高校生の「学力把握」& 受験生の「選抜」
- 忘れられた「学力把握」の仕組みづくり
- コスト・パフォーマンスを省みない入試改革

4. 当事者の視点で大学進学を考える

	日本		米国	英国
4月		9月		
5月		10月		早期締切 面接等(～12月)
6月		11月	→ 早期締切	オファー通知(～5月)
7月		12月	早期合否	
8月		1月	→ 一般締切	一般締切
9月	総合型選抜出願→	2月		
10月		3月	一般合否(～4月)	
11月	学校推薦型選抜出願→ 総合型選抜合否→	4月		
12月	学校推薦型選抜合否→	5月	入学手続締切	大学からのオファーが出揃う Aレベル試験(～6月)
1月	共通テスト	6月	高校の卒業式	オファーへの返答
2月	私大一般選抜 国公立前期日程2次試験	7月		高校の卒業式
3月	高校の卒業式 国公立中期・後期日程2次試験	8月		Aレベル試験結果発表

1. 日本人の国・公・私立等の階層意識は強固

- ◆ 入試をいじったからと言って、軽々に変化するものでもない。

2. 年明け入試の限界と年内入試へのシフト

- ◆ 年明けに実施する共通テストや個別入試では、時間的な制約から出来る事には限りがあり、無理をすれば公平性や納得性が損なわれる所以、その仕組みは出来るだけシンプルに。
- ◆ 国公立大学の一般選抜の合格発表が、(多くの)高校の卒業式後であるという事の異常さ。多くの受験生の本音は、早く決めたい。丁寧な選抜は、年内でないと難しい。

3. 文脈の中で考える、高大接続・入学者選抜・大学進学

- ◆ 学力勝負型の一般選抜であれ、探求型の総合型選抜であれ、面談型の総合型選抜であれ、日本独特の指定校制学校推薦型選抜であれ、それぞれに固有の機能と役割がある。
- ◆ 入学者選抜は〇年次教育という発想
- ◆ 正解から“納得解”へ — 受験生を含む学生支援の意義

2025年度 学生支援に関する基礎研修講座 「講義4」ワークシート

学生
②

学部学科・学年・性別	出身高等学校名（高校の所在都道府県名または国名）
入学前の大学選びに関して、考えていたことや行ったこと。	
受験のプロセス(他大学も含む)	
入学した大学に対する入学前のイメージや志望度	
大学入学直後の心境や大学に対する意識	
大学生活を充実させるための取り組んだことや、現在の大学に対する意識	
インタビューを行ってみた受講者の気づき	